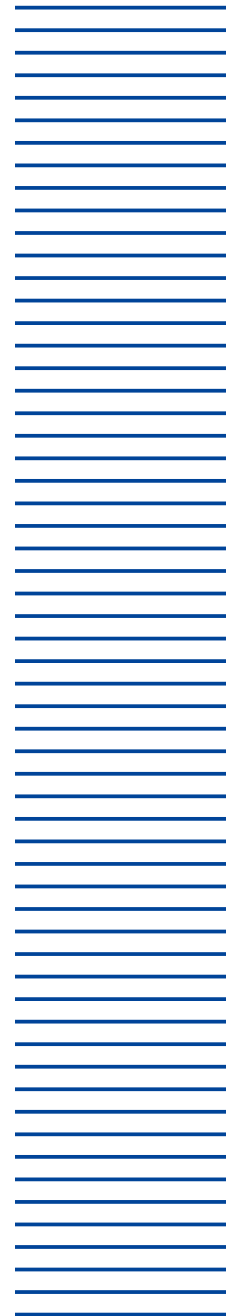




2017年12月期 第3四半期 決算説明資料

2017年 11月 9日
富士ソフト 株式会社





目次

2017年12月期第3四半期 決算

- P2. 連結業績ハイライト
- P4. 主なグループ会社売上高・営業利益
- P5. 連結セグメント別売上高・営業利益
- P6. 連結損益計算書
- P7. 連結貸借対照表
- P8. 連結キャッシュ・フロー計算書
- P9. 連結S I事業の受注高・受注残高



● 連結業績ハイライト① (3Q累計実績)

売上高はシステム構築分野の好調により増収

◇売上高は、前期に引き続き機械制御系や自動車、流通・サービス向けをはじめとしてシステム構築分野が好調に推移し、前年同期比110.1%の134,808百万円となりました。

営業利益は増収により増益

◇営業利益は、前期に引き続き生産・営業体制の整備や研究開発等の先行投資を継続したものの、増収により、前年同期比105.9%の6,784百万円となりました。

◇経常利益は、営業利益の増加およびエース証券などの持分法投資利益の増加により、前年同期比109.9%の7,133百万円となりました。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比108.7%の3,916百万円となりました。

(単位:百万円)

	2016年12月期 3Q累計実績	2017年12月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2017年12月期 3Q累計計画	計画比
売上高	122,456	134,808	+12,352	110.1%	125,500	107.4%
営業利益	6,407	6,784	+376	105.9%	6,370	106.5%
営業利益率	5.2%	5.0%			5.1%	
経常利益	6,489	7,133	+644	109.9%	6,605	108.0%
経常利益率	5.3%	5.3%			5.3%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,604	3,916	+312	108.7%	3,575	109.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	2.9%	2.9%			2.8%	



● 連結業績ハイライト②（3Q区間実績）

売上高は前年同期比110.1%と増収

◇全体的に堅調に推移し、前年同期比110.1%の44,697百万円となりました。

売上原価率は76.7%と改善傾向に

◇不採算案件の抑制や受託開発原価率の改善などにより、売上原価率は改善し、76.7%となりました。

販売費及び一般管理費は前年同期より759百万円増加

◇販売費及び一般管理費は、売上拡大に伴う生産・営業体制の整備、販売促進費用の増加、研究開発費の増加等により、前年同期より759百万円増加し、7,802百万円となりました。

営業利益は前年同期比110.1%で237百万円の増益

（単位：百万円）

	2017年12月期 2Q累計実績	前同差	前同比	2017年12月期 3Q区間実績	前同差	前同比
売上高	90,111	+8,262	110.1%	44,697	+4,090	110.1%
売上原価	69,517	+6,733	110.7%	34,295	+3,093	109.9%
売上原価率	77.1%			76.7%		
売上総利益	20,594	+1,528	108.0%	10,401	+996	110.6%
販売費及び一般管理費	16,408	+1,388	109.2%	7,802	+759	110.8%
営業利益	4,186	+139	103.5%	2,598	+237	110.1%
営業利益率	4.6%			5.8%		



● 主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2017年 12月期	売上高	営業利益	
富士ソフト	3Q累計実績	83,704	3,886	売上高は、機械制御、流通・サービス、ライセンス販売を中心にSI事業が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、生産・営業体制の整備や研究開発等の先行投資に関する費用、需要の増加に先行して対応するための販売促進費用、税制改正に伴う事業税の増加などがあり、微減となりました。
	前同差	+8,298	△ 25	
	前同比	111.0%	99.3%	
サイバネットシステム	3Q累計実績	13,170	1,007	売上高は、国内では主力のMCAE分野、光学設計分野が堅調であり、また最適設計支援ツールが好調に推移しました。海外では前期の大型案件による反動減はあったものの、アメリカ・ベルギーの開発子会社、中国・台湾の販売子会社が好調に推移し、全体で増収となりました。営業利益は増収により増益となりました。
	前同差	+836	+89	
	前同比	106.8%	109.7%	
ヴィンクス	3Q累計実績	20,140	1,020	売上高は、既存主要顧客への更なる深耕およびパッケージ開発・販売が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、投資等強化により販管費は増加したものの、増収および開発の生産性向上により、増益となりました。
	前同差	+250	+15	
	前同比	101.3%	101.5%	
サイバーコム	3Q累計実績	7,965	336	売上高は、制御系ソフトウェア開発および業務系ソフトウェア開発の拡大に加え、ネットワーク構築等のサービス事業が堅調に推移し、増収となりました。営業利益は、本社移転による費用が増加したものの、増収により増益となりました。
	前同差	+879	+20	
	前同比	112.4%	106.5%	
富士ソフト サービスビューロ	3Q累計実績	7,208	293	売上高は、コールセンターサービス分野・BPOサービス分野ともに官公庁向けの新規案件が伸張し、増収となりました。営業利益は、増収等により前年を大きく上回り、増益となりました。
	前同差	+1,388	+186	
	前同比	123.9%	274.1%	

※「2017年12月期3Q累計実績」欄には、各社2017年1～9月の実績を記載しています。



● 連結セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2017年12月期売上高		前同差	前同比	2017年12月期営業利益		前同差	前同比
	3Q累計実績	構成比			3Q累計実績	営業利益率		
全社計	134,808	100.0%	+12,352	110.1%	6,784	5.0%	+376	105.9%
SI事業	124,900	92.6%	+10,754	109.4%	5,574	4.5%	△ 11	99.8%
システム構築	75,262	55.8%	+7,824	111.6%	3,540	4.7%	△ 246	93.5%
組込系／制御系ソフトウェア	39,084	29.0%	+4,043	111.5%	2,094	5.4%	△ 253	89.2%
業務系ソフトウェア	36,178	26.8%	+3,781	111.7%	1,445	4.0%	+6	100.5%
プロダクト・サービス	49,637	36.8%	+2,929	106.3%	2,034	4.1%	+235	113.1%
プロダクト・サービス	38,382	28.5%	+4,242	112.4%	1,545	4.0%	+482	145.4%
アウトソーシング	11,254	8.3%	△ 1,313	89.5%	488	4.3%	△ 246	66.4%
ファシリティ事業	2,013	1.5%	△ 14	99.3%	838	41.6%	+150	121.9%
その他事業	7,895	5.9%	+1,613	125.7%	371	4.7%	+237	276.8%

セグメント別売上高のポイント

●組込系／制御系ソフトウェア

売上高は、機械制御系が好調に推移し、自動車系、社会インフラ系が堅調に推移したことにより、前年同期比111.5%と増収になりました。営業利益は、生産・営業体制の整備、生産拠点の拡大などの先行投資、1Qに発生した不採算案件の影響により減益となりました。

●業務系ソフトウェア

売上高は、流通・サービス向けなどを中心に幅広く前年同期を上回り、前年同期比111.7%と増収になりました。営業利益は、生産・営業体制の整備、生産拠点の拡大などの先行投資があったものの増収により増益となりました。

●プロダクト・サービス

売上高は、ライセンス販売やPALROおよびロボット開発事業が前年同期を大きく上回ったことなどにより、前年同期比112.4%と増収になりました。営業利益は、増収により大幅に増益となりました。

●アウトソーシング

売上高は、流通向け取引の減少などにより、前年同期比89.5%と減収になりました。営業利益は、データセンターの改修に関する経費増加や減収により減益となりました。



連結損益計算書

(単位: 百万円)

	2016年12月期	2017年12月期	前同差	前同比	2017年12月期	
	3Q累計実績	3Q累計実績			3Q累計計画	計画比
売上高	122,456	134,808	+12,352	110.1%	125,500	107.4%
売上原価	93,985	103,813	+9,827	110.5%	—	—
売上原価率	76.8%	77.0%				
売上総利益	28,470	30,995	+2,525	108.9%	—	—
売上総利益率	23.2%	23.0%				
販売費及び一般管理費	22,062	24,211	+2,148 ①	109.7%	—	—
販管費率	18.0%	18.0%				
営業利益	6,407	6,784	+376	105.9%	6,370	106.5%
営業利益率	5.2%	5.0%			5.1%	
営業外収益	317	334	+16	105.3%	—	—
営業外費用	321	176	△ 144	54.9%	—	—
持分法による投資損益	86	191	+105	222.9%	—	—
経常利益	6,489	7,133	+644	109.9%	6,605	108.0%
経常利益率	5.3%	5.3%			5.3%	
特別利益	52	672	+619 ②	1269.0%	—	—
特別損失	171	803	+632	468.5%	—	—
税金等調整前四半期純利益	6,370	7,001	+631	109.9%	—	—
法人税等合計	2,172	2,223	+50	102.3%	—	—
四半期純利益	4,197	4,778	+580	113.8%	—	—
非支配株主に帰属する四半期純利益	593	862	+268	145.2%	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,604	3,916	+312	108.7%	3,575	109.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	2.9%	2.9%			2.8%	

損益計算書のポイント

① 販売費及び一般管理費 (+2,148百万円)

売上拡大に伴う生産・営業体制の整備、販売促進費用の増加、研究開発費や税制改正による事業税の増加など

② 特別利益 (+619百万円) 特別損失 (+632百万円)

投資有価証券売却益の増加と、遊休資産の除却などによる特別損失の増加



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2016年12月期 期末	2017年12月期 3Q期末	前期末差
流動資産	67,350	69,392	2,041
現金及び預金	19,134	17,817	△ 1,316
受取手形及び売掛金	36,727	38,615	1,887 ①
有価証券	4,500	5,200	700
たな卸資産	2,577	2,400	△ 177
繰延税金資産	2,254	2,970	715
その他	2,156	2,388	232
固定資産	96,513	98,127	1,614
有形固定資産	65,796	64,702	△ 1,094 ②
無形固定資産	5,949	6,872	922
投資その他の資産	24,766	26,553	1,786 ③
資産合計	163,863	167,520	3,656
流動負債	37,461	37,671	209
支払手形及び買掛金	9,444	9,438	△ 6
短期借入金	9,410	7,547	△ 1,863 ④
未払費用・賞与引当金	6,826	9,276	2,450 ⑤
未払法人税等	2,153	2,290	136
工事損失引当金	267	94	△ 173
その他	9,358	9,024	△ 333
固定負債	17,400	15,823	△ 1,576
長期借入金	6,723	4,163	△ 2,560 ④
その他	10,676	11,660	983
負債合計	54,861	53,495	△ 1,366
純資産合計	109,001	114,025	5,023
負債純資産合計	163,863	167,520	3,656

貸借対照表のポイント

① 受取手形及び売掛金 (+1,887百万円)

売上増による売上債権の増加

② 有形固定資産 (△1,094百万円)

遊休資産の除却による有形固定資産の減少

③ 投資その他の資産 (+1,786百万円)

投資有価証券の価格変動や成長分野での先行投資

④ 短期借入金 (△1,863百万円) ※1年内返済長期借入金含む 長期借入金 (△2,560百万円)

約定返済による減少

⑤ 未払費用・賞与引当金 (+2,450百万円)

従業員増および待遇改善にともなう賞与引当金
および関連する費用の増加



● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2016年12月期 3Q累計実績	2017年12月期 3Q累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,732	7,443	△ 1,288
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,716	△ 3,332	△ 615
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,350	△ 5,282	△ 6,633
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 432	40	
現金及び現金同等物の増減額	6,933	△ 1,130	
現金及び現金同等物の期首残高	15,688	21,790	
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,622	20,660	

キャッシュ・フローのポイント

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は7,443百万円の収入となりました。なお、前同差は法人税支払額の増加により1,288百万円の減少となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は自社製品（ソフトウェア）や設備投資に関する支出があったこと、成長分野での先行投資があったこと、株式売却による収入があったことなどにより3,332百万円の支出となりました。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

当期は借入金の返済等により5,282百万円の支出となりました。なお、前期は借入や子会社株式の売却収入等により、1,350百万円の収入でした。



● 連結 S I 事業の受注高・受注残高

(単位:百万円)

	2017年12月期 3Q累計実績							
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	34,976	114.0%	128,760	109.8%	124,900	109.4%	38,837	114.9%
システム構築	23,803	115.1%	77,874	112.6%	75,262	111.6%	26,415	117.8%
組込系／制御系ソフトウェア	9,981	111.1%	40,700	113.0%	39,084	111.5%	11,597	116.5%
業務系ソフトウェア	13,822	118.2%	37,173	112.1%	36,178	111.7%	14,817	118.9%
プロダクト・サービス	11,172	111.7%	50,886	105.8%	49,637	106.3%	12,421	109.1%
プロダクト・サービス	8,168	104.1%	39,389	114.3%	38,382	112.4%	9,174	112.2%
アウトソーシング	3,004	139.0%	11,496	84.4%	11,254	89.5%	3,246	101.1%

受注高・受注残高のポイント

● システム構築分野のポイント

- ・組込系/制御系ソフトウェア
FAなど機械制御系、社会インフラ系の受注が好調に推移し、期末受注残高は前年同期比116.5%となりました。
- ・業務系ソフトウェア
流通・サービス向けや金融業での受注が好調に推移したことにより期末受注残高は前年同期比118.9%となりました。

● プロダクト・サービス分野のポイント

- ・プロダクト・サービス
ライセンス販売が好調に推移し、期末受注残高は前年同期比112.2%となりました。
- ・アウトソーシング
流通・サービス向けでの受注が減少したものの、前期の官公庁向け大型案件の受注残があり、期末受注残高は前年同期比101.1%となりました。



BYOD推進企業



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性があります。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。